

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B1)

(11) 特許番号

特許第6472554号
(P6472554)

(45) 発行日 平成31年2月20日(2019.2.20)

(24) 登録日 平成31年2月1日(2019.2.1)

(51) Int.Cl.

F 1

E O 4 B 1/68 (2006.01)

E O 4 B 1/68 1 0 0 A

請求項の数 5 (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2018-24593 (P2018-24593)
 (22) 出願日 平成30年2月15日(2018.2.15)
 審査請求日 平成30年2月21日(2018.2.21)

(73) 特許権者 000110365
 ドーエイ外装有限会社
 三重県桑名市大字大福338番地
 (74) 代理人 100080838
 弁理士 三浦 光康
 (74) 代理人 100194261
 弁理士 相原 崇行
 (72) 発明者 後藤 英夫
 三重県桑名市西別所1200-169

審査官 坂本 卓也

(56) 参考文献 特開2014-118789 (JP, A)
)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 床用目地装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一方と他方の躯体間の目地部を塞ぐ床用目地装置であって、前記一方の躯体に設けられた目地プレート取付部と、前記他方の躯体に設けられた凹所状の目地プレート支持部と、前記目地プレート取付部に一端部が取り付けられているとともに、前記目地プレート支持部に他端部が支持される目地プレートと、前記他方の躯体に一端部が固定されているとともに、他端部が前記目地プレートに支持されるカバープレートと、カバープレートの底面を支持するカバープレート支持機構と、目地プレートをガイドするガイド部材とで構成され、前記目地プレートは、一端部が前記目地プレート取付部に取り付けられているとともに、他端部が前記目地プレート支持部に支持され、かつ、変形可能な棒状の目地プレート支持部材と、該目地プレート支持部材に枢支ピンで枢支され、互いに一部が重なり合う複数個の目地プレート本体と、前記ガイド部材にガイドされる被ガイド部とからなり、また、前記カバープレート支持機構は、前記目地プレートの他端部と前記目地プレート支持部の端部との間に所定間隔で配置され、前記カバープレートにかかる荷重を支持するカバープレート支持体と、このカバープレート支持体を伸縮可能に接続する伸縮部材とからなり、地震時に一方の躯体と左右の躯体が異なる前後方向に揺れ動いた場合に、目地プレート支持部材が変形し、地震による揺れ動きに追従する床用目地装置。

【請求項 2】

前記ガイド部材は、前記目地プレート支持部の側壁の目地部側端部付近に対向するように設けられ、前記被ガイド部は、目地プレート支持部材の前後方向の側面であることを特徴

10

20

とする請求項 1 に記載の床用目地装置。

【請求項 3】

前記ガイド部材は、前記目地プレート支持部の目地部側の端部付近に、上方へ突出するピン状の部材であり、前記被ガイド部は、前記ピン状のガイド部材に係合する前記目地プレート支持部材に設けられたレール状の部材であることを特徴とする請求項 1 に記載の床用目地装置。

【請求項 4】

前記枠状の目地プレート支持部材は、その内側部位に補強部材が枢支状態で設けられていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載の床用目地装置。

【請求項 5】

前記枠状の目地プレート支持部材は、目地プレート支持部に滑動部材を介して支持されていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれかに記載の床用目地装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は目地部を介して設けられた躯体の間の目地部を塞ぐ床用目地装置に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、複数の目地プレートを用いて床面間の目地部を塞ぐ床用目地装置としては、「目地部を介して設けられた左右の床躯体の一方の床躯体の目地部側の床面に形成された目地プレートスライド支持凹部と、この目地プレートスライド支持凹部に左右方向に案内できるように所定間隔で配置された複数のガイドレールと、前記目地プレートスライド支持凹部の左右方向の中央部である前記複数のガイドレールの左右方向の中央部に先端部がスライド移動可能に支持され、後端部が前記他方の床躯体の目地部側の床面に、該床面の上面と上面がほぼ同一面となるように取付けられた床目地プレートと、この床目地プレートの先端部がスライド移動できるように、前記目地プレートスライド支持凹部を覆うカバープレートと、前記床目地プレートの先端部と前記目地プレートスライド支持凹部の反目地部側端部との間の前記ガイドレールに所定間隔で配置された、前記カバープレートにかかる荷重を支持する複数の支持体、この支持体を伸縮可能に接続する、一端が前記床目地プレートの先端部に取付けられ、他端が前記目地プレートスライド支持凹部の反目地部側に取付けられた伸縮部材とからなるカバープレート支持部材とで構成されていることを特徴とする床用目地装置」が知られている（例えば特許文献 1）。

【0003】

しかし、上記床用目地装置は、複数のガイドレールにそれぞれ係合する支持アームと、この支持アームに設けられた床パネルとで床目地プレートを構成しており、複数の支持アームをガイドするために、目地プレートスライド支持凹部に複数のガイドレールを備える必要が生じ、コストが高くなるという問題点があった。

また、複数のガイドレールが設けられているため、左右の躯体が異なる前後方向に揺れ動いた場合に、カバープレート支持部材の動きが制限されてしまい左右の躯体の揺れ動きに追従することができないという問題点があった。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2014 - 118789 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

本発明は以上のような従来の問題点に鑑み、低コストで設置できるとともに、左右の躯体の揺れ動きに確実に追従できるカバープレート支持機構を備える床用目地装置を提供することを目的としている。

10

20

30

40

50

【 0 0 0 6 】

本発明の前記ならびにそのほかの目的と新規な特徴は次の説明を添付図面と照らし合わせて読むと、より完全に明らかになるであろう。

ただし、図面はもっぱら解説のためのものであって、本発明の技術的範囲を限定するものではない。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 7 】

上記目的を達成するために、本発明の床用目地装置は、一方と他方の躯体間の目地部を塞ぐ床用目地装置であって、前記一方の躯体に設けられた目地プレート取付部と、前記他方の躯体に設けられた凹所状の目地プレート支持部と、前記目地プレート取付部に一端部が取り付けられているとともに、前記目地プレート支持部に他端部が支持される目地プレートと、前記他方の躯体に一端部が固定されているとともに、他端部が前記目地プレートに支持されるカバープレートと、カバープレートの底面を支持するカバープレート支持機構と、目地プレートをガイドするガイド部材とで構成され、前記目地プレートは、一端部が前記目地プレート取付部に取り付けられているとともに、他端部が前記目地プレート支持部に支持され、かつ、変形可能な枠状の目地プレート支持部材と、該目地プレート支持部材に枢支ピンで枢支され、互いに一部が重なり合う複数の目地プレート本体と、前記ガイド部材にガイドされる被ガイド部とからなり、また、前記カバープレート支持機構は、前記目地プレートの他端部と前記目地プレート支持部の端部との間に所定間隔で配置され、前記カバープレートにかかる荷重を支持するカバープレート支持体と、このカバープレート支持体を伸縮可能に接続する伸縮部材とからなり、地震時に一方の躯体と左右の躯体が異なる前後方向に揺れ動いた場合に、目地プレート支持部材が変形し、地震による揺れ動きに追従することを特徴とする。

【 0 0 0 8 】

前記ガイド部材は、前記目地プレート支持部の目地部側の端部付近の前後方向に対向するように設けられ、前記被ガイド部は、目地プレート支持部材の前後方向の側面であることを特徴とする請求項 1 に記載の床用目地装置。

【 0 0 0 9 】

前記ガイド部材は、前記目地プレート支持部の目地部側の端部付近に、上方へ突出するピン状に形成されており、前記被ガイド部は、前記目地プレート支持部材に設けられたレール状の部材であり、前記ピン状のガイド部材に係合することを特徴とする。前記枠状の目地プレート支持部材は、その内側部位に補強部材が枢支状態で設けられていることを特徴とする。

【 0 0 1 0 】

前記枠状の目地プレート支持部材は、目地プレート支持部に滑動部材を介して支持されていることを特徴とする。

【発明の効果】

【 0 0 1 1 】

以上の説明から明らかなように、本発明にあっては次に列挙する効果が得られる。

(1) 請求項 1 に記載の発明においては、変形可能な枠状の目地プレート支持部材と目地プレート本体で目地プレートを構成することにより、目地プレート支持部に複数のガイドレールを設けなくてもよいので、部品点数を少なくすることができ、低コストで設置することができる。

(2) また、カバープレート支持機構は、目地プレート支持部に設けられており、この目地プレート支持部には、複数のガイドレール等が設けられていないので、カバープレート支持機構は目地プレート支持部上を自由に移動することができる。

したがって、左右の躯体が異なる前後方向に揺れ動いた場合等に、カバープレート支持機構はガイドレール等に動きを制限されることなく左右の躯体の揺れ動きに追従することができる。

(3) 請求項 2 及び請求項 3 に記載の各発明についても、前記 (1) ~ (2) と同様な効

果が得られるとともに、合理的手段により、地震の揺れ動きを吸収することができる。

(4) 請求項 4 に記載の発明についても、前記 (1) ~ (3) と同様な効果が得られるとともに、目地プレート支持部材の強度を向上させることができる。

(5) 請求項 5 に記載の発明においても、前記 (1) ~ (4) と同様な効果が得られるとともに、目地プレートをスムーズにスライド移動させることができる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

図 1 乃至図 9 は本発明の第 1 の実施形態を示す説明図である。

図 10 乃至図 14 は本発明の第 2 の実施形態を示す説明図である。

【図 1】第 1 の実施形態の床用目地装置の平面図。

10

【図 2】図 1 の 2 - 2 線に沿う断面図。

【図 3】図 1 の 3 - 3 線に沿う断面図。

【図 4】目地プレートの説明図。

【図 5】目地プレート支持部材の説明図。

【図 6】目地プレート本体の説明図。

【図 7】地震で目地部が狭くなった動作説明図。

【図 8】地震で目地部が広がった動作説明図。

【図 9】地震で左右の躯体が異なる前後方向に揺れ動いた場合の動作説明図。

【図 10】第 2 の実施形態の床用目地装置の平面図。

【図 11】図 10 の 11 - 11 線に沿う断面図。

20

【図 12】図 10 の 12 - 12 線に沿う断面図。

【図 13】目地プレート本体の説明図。

【図 14】地震で左右の躯体が異なる前後方向に揺れ動いた場合の動作説明図。

【発明を実施するための形態】

【0013】

以下、図面に示す本発明を実施するための形態により、本発明を詳細に説明する。

図 1 乃至図 9 に示す本発明を実施するための第 1 の形態において、1 は目地部 2 を介して設けられた一方の躯体 3 と他方の躯体 4 間に設置された床用目地装置である。

なお、左右方向とは図 1 における左右方向（符号の向きを基準）であり、前後方向とは図 1 における上下方向（符号の向きを基準）をいい、上下方向とは図における上下方向をいう。

30

【0014】

また、本発明において躯体とは、建物、道路、スラブ、エレベーターシャフト等の目地プレートを設置可能な建造物をいい、出入口とはドアや扉の設けられた出入口だけではなく、人や車両等が通行できる通路も含むものである。

【0015】

この床用目地装置 1 は、図 1 乃至図 3 に示すように、一方の躯体 3 に設けられた目地プレート取付部 5 と、他方の躯体 4 に設けられた凹所状の目地プレート支持部 6 と、前記目地プレート取付部 5 にその一端部 7 a が取り付けられるとともに、前記目地プレート支持部 6 に他端部 7 b が略水平状態に支持される所定長の目地プレート 7 と、前記他方の躯体 4 にその一端部 8 a が固定され、他端部 8 b が前記目地プレート 7 の上面に支持される所定長のカバープレート 8 と、カバープレート 8 の底面を支持するカバープレート支持機構 9 と、目地プレート 7 をガイドするローラー状のガイド部材 20 とで構成されている。

40

【0016】

目地プレート取付部 5 は、本実施形態では、一方の躯体 3 の目地部 2 側の壁面 3 a に固定され、かつ、前後方向に延在するレール状の金具により形成されている。この目地プレート取付部 5 は、例えば図 2 に示すように、正面視略アングル状に形成されており、この上面は、目地プレート 7 を取り付けした場合に、目地プレート 7 の上面と一方の躯体 3 の床面が略面一となるように壁面 3 a に固定されている。

なお、目地プレート取付部 5 は、このような金具を用いず、例えば一方の躯体 3 に直接目

50

地プレート取付部 5 を形成してもよい。

【 0 0 1 7 】

目地プレート支持部 6 は、他方の躯体 4 の目地部側に凹所状に設けられており、この目地プレート支持部 6 の上面によって目地プレート 7 の他端部 7 b が支持される。この目地プレート支持部 6 の前後方向の寸法は、目地プレート 7 が変形した時に目地プレート 7 の端部等が衝突しないように、目地プレート 7 の前後方向の寸法よりも大きくなるように形成されている。この目地プレート支持部 6 には、金属板等の補強板を固定してもよい。

【 0 0 1 8 】

目地プレート 7 は、一端部が前記目地プレート取付部 5 にピンやボルト等で取り付けられ、他端部が前記目地プレート支持部 6 に支持され、かつ、変形可能な枠状の目地プレート支持部材 1 0 と、該目地プレート支持部材 1 0 に枢支ピン 1 1 で枢支され、互いに一部が重なり合う複数個の目地プレート本体 1 2 とで構成されている。

【 0 0 1 9 】

この目地プレート支持部材 1 0 は、平面視略長形状にバー部材 1 0 a が枠組みされた部材で、このバー部材 1 0 a 同士の接続部分は枢支ピンで枢支されており、この枢支ピン 1 1 を支点にバー部材 1 0 a が回転し変形することができる。例えば、このバー部材 1 0 a の一辺を固定した状態で、固定したバー部材 1 0 a 以外の部位に力を加えると、他のバー部材 1 0 a は枢支ピンを支点に回転し、目地プレート支持部材 1 0 は平行四辺形状に変形する。

【 0 0 2 0 】

なお、バー部材 1 0 a は、本実施形態では、角柱状のものが使用されているが、例えば角管状でもよいし、H 鋼等の形状のバー部材 1 0 a を用いてもよい。

本実施形態では、図 5 に示すように、目地プレート支持部材 1 0 の前後方向の側面が被ガイド部 2 1 となっており、この被ガイド部 2 1 は前記ローラー状のガイド部材 2 0 と常時当接している。

【 0 0 2 1 】

この枠状の目地プレート支持部材 1 0 の一辺が前記目地プレート取付部 5 にピンやボルトで固定的に取り付けられており、一方、その他の辺は前記枢支ピン 1 1 を支点に回転することができる状態となっている。

【 0 0 2 2 】

本実施形態では、目地プレート支持部材 1 0 の内側部位には、左右方向に延在するバー状の補強部材 1 3 が複数個設けられている。この補強部材 1 3 の両端部は、枢支ピン 1 1 でバー部材 1 0 a に回転可能に枢支されており、補強部材 1 3 が目地プレート支持部材 1 0 の変形を妨げないように設けられている。

【 0 0 2 3 】

また、目地プレート支持部材 1 0 の他方の躯体 4 側の端部（他端部）付近の底面にはローラー等の滑動部材 1 4 が設けられている。この滑動部材 1 4 を設けることにより、目地プレート支持部材 1 0 の左右方向及び前後方向の移動をスムーズにすることができる。

目地プレート本体 1 2 は、本実施形態では、図 6 等 に示すように正面視において、左右方向の端部付近に薄板状の段差部 1 2 a が形成（例えば正面視略クランク状）されており、この段差部 1 2 a の一部が、隣り合う他の目地プレート本体 1 2 と一部が重なりあうように設けられている。

【 0 0 2 4 】

また、一枚の目地プレート本体 1 2 は図 1 等 に示すように前後方向のバー部材 1 0 a 及び複数個の補強部材 1 3 にわたって枢支状態で設けられている。このように目地プレート本体 1 2 を設けることにより、地震によって左右の躯体 3、4 が異なる前後方向に揺れ動いた場合に、図 9 に示すように目地プレート本体 1 2 自体が傾くことなく（躯体と略平行状態を維持した状態）、揺れ動きを吸収することができる。

【 0 0 2 5 】

カバープレート 8 は、平面視形状で金属製の板材で、一端部 8 a がビス等によって他

10

20

30

40

50

方の躯体 4 の床面に固定されており、他端部 8 b は前記目地プレート 7 の上面に支持されていて、目地プレート支持部 6 を覆うように設けられている。このカバープレート 8 の他端部 8 b は、本実施形態においては、他方の躯体 4 の目地部側壁面 4 a と略面一となるような長さに形成されている。

【 0 0 2 6 】

本実施形態では、他方の躯体 4 の床面にカバープレート 8 を直接固定しているが、取付金具等を介してカバープレート 8 の一端部 8 a を固定してもよい。

【 0 0 2 7 】

カバープレート支持機構 9 は、目地プレート 7 の他端部 7 b と前記目地プレート支持部 6 の端部 6 a との間に所定間隔で配置され、前記カバープレートにかかる荷重を支持する複数個、本実施形態では 2 つのカバープレート支持体 1 5 と、このカバープレート支持体 1 5、前記目地プレートの他端部 7 b 及び前記目地プレート支持部 6 の端部 6 a を伸縮可能に接続する伸縮部材 1 6 とで構成されている。このカバープレート支持体 1 5 は、カバープレートの長さによっては 1 つのみ設けてもよいが、2 つ以上設けることが望ましい。

【 0 0 2 8 】

カバープレート支持体 1 5 は、支持体本体 1 7 と、この支持体本体 1 7 の上・下部へ突出するローラー 1 8 とで構成されている。

【 0 0 2 9 】

前記伸縮部材 1 6 は、本実施形態ではコイルスプリングが用いられ、前記目地プレートの他端部 7 b と一方のカバープレート支持体 1 5、一方のカバープレート支持体 1 5 と他方のカバープレート支持体 1 5 及び他方のカバープレート支持体 1 5 と前記目地プレート支持部 6 の端部 6 a の間にそれぞれ設けられている。

【 0 0 3 0 】

本実施形態では、このカバープレート支持体 1 5 及び伸縮部材 1 6 は、前後方向に複数個設けられてカバープレート支持機構 9 を構成している。ところで、前後方向のカバープレート支持体 1 5 は、接続部材等によってそれぞれ接続してもよい。

【 0 0 3 1 】

ガイド部材 2 0 は、目地プレート支持部 6 の目地部 2 側の端部付近の前後方向の側面 6 b に対向するように設けられた 1 対のローラー状の部材で、本実施形態では、常時目地プレート支持部材 1 0 の前後方向の側面（被ガイド部 2 1）に当接している。このガイド部材 2 0 は、目地プレート支持部 6 の目地部 2 側の端部付近に限らず、他方の躯体 4 側の側面 6 b に設けてもよい。この場合には、地震によって左右の躯体 3、4 が異なる前後方向に揺れ動いた場合に、目地プレート 7 等が側面 6 b に衝突することを防止するために目地プレート支持部 6 の目地部 2 側の端部付近の側面 6 b に切り欠きを設けことが望ましい。

【 0 0 3 2 】

なお、本実施形態では、左右の躯体 3、4 にカバー装置 1 9 を設けている。カバー装置 1 9 は、左右の躯体 3、4 の地震による揺れ動きに追従することができ、目地プレート 7 の前後方向から目地部 2 下方へ転落防止できるものであればどのようなものを用いてもよい。例えば、公知の壁面用目地装置や伸縮手摺等を用いることができる。

【 0 0 3 3 】

地震で左右の躯体 3、4 が左右方向に揺れ動き目地部 2 が狭くなると、図 7 に示すように、目地プレート 7 が他方の躯体 4 側へスライド移動し、地震による揺れ動きを吸収する。このときカバープレート支持機構 9 は、伸縮部材 1 6 が縮み、カバープレート支持体 1 5 同士の間隔を狭くして地震による揺れ動きを吸収する。

【 0 0 3 4 】

地震で躯体 3、4 が左右方向に揺れ動き目地部 2 が広がると、図 8 に示すように、目地プレート 7 が他方の躯体 4 から離間する方向にスライド移動し、地震による揺れ動きを吸収する。このときカバープレート支持機構 9 は、伸縮部材 1 6 が伸長し、カバープレート支持体 1 5 同士の間隔を広げて地震による揺れ動きを吸収する。

【 0 0 3 5 】

地震で躯体 3、4 が異なる前後方向に揺れ動いた場合、目地プレート支持部材 10 の被ガイド部 21 が、ガイド部材 20 により前後方向に押圧されることにより、目地プレート支持部材 10 が平面視略平行四辺形状に変形する。すなわち、ガイド部材 20 を支点として目地プレート支持部材 10 が平面視略平行四辺形状に変形し、この変形に伴って目地プレート本体 12 も平面視階段状に前後方向にスライド移動し、揺れ動きを吸収する。この時目地プレート支持部材 10 の左右方向の寸法が若干小さくなるが、目地プレート本体 12 の段差部 12a の重なり幅が大きくなることにより左右方向の寸法の変化を吸収する。

【0036】

また、カバープレート支持機構 9 も目地プレート 7 の動きに従い、斜め方向にスライド移動する。この時、目地プレート支持部 6 にレール等が設置されていないため、カバープレート支持機構 9 は自由に動くことができ、スムーズに目地プレート 7 の動きに従うことができる。

【0037】

地震による揺れ動きが終了すると、目地プレート支持部材 10 はガイド部材 20 に押圧されて平面視略長方形形状に変形して通常状態に自動的に復帰する。

【0038】

[発明を実施するための異なる形態]

次に、図 10 乃至図 14 に示す本発明を実施するための異なる形態につき説明する。なお、これらの本発明を実施するための異なる形態の説明に当って、前記本発明を実施するための第 1 の形態と同一構成部分には同一符号を付して重複する説明を省略する。

図 10 乃至図 14 に示す本発明を実施するための第 2 の形態において、前記本発明を実施するための第 1 の形態と主に異なる点は、2 枚の板を接合して形成した目地プレート本体 12A と、左右方向に延在するレール状の被ガイド部 21A を備える目地プレート支持部材 10A からなる目地プレート 7A にするとともに、目地部 2 側の端部付近に、上方へ突出するとともに、前記被ガイド部 21A に係合する例えばピン状のガイド部材 20A を用いた点で、このような床用目地装置 1A にしても、前記本発明を実施するための第 1 の形態と同様の作用効果を得ることができる。

【0039】

この被ガイド部 21A は、例えば補強部材 13 やバー部材 10a と同様に、枢支ピン 11 で目地プレート支持部材 10 に回動可能に枢支してもよく、バー部材 10a や補強部材 13 の側面に固定してもよい。バー部材 10a や補強部材 13 の側面に固定する場合には、バー部材 10a 等の回動を妨げないように固定する。本実施形態では、中央部の補強部材 13 の側面に被ガイド部 21A を固定している。

【0040】

本実施形態では、地震で躯体 3、4 が異なる前後方向に揺れ動いた場合、ガイド部材 20A によりレール状の被ガイド部 21A が前後方向に押圧されることにより、目地プレート支持部材 10 がガイド部材 20A を支点に平面視略平行四辺形状に変形して地震による揺れ動きを吸収する。

【0041】

なお、本発明の実施形態では目地プレート支持部材に補強部材を用いるものについて説明したが、必ずしも補強部材を設けなくてもよく、目地プレート支持部材に滑動部材を設けなくてもよい。

【0042】

滑動部材については、ローラーだけではなく、ベアリングや板状のすべり材等を目地プレート支持部材に設けてもよく、ベアリング等を目地プレート支持部に設けて、このベアリング等を介して目地プレート支持部材を支持してもよい。

【0043】

例えば目地プレート支持部の側壁自体をガイド部材としてもよく、左右の躯体が異なる前後方向に揺れ動いた場合に、前記側壁が被ガイド部であるバー部材の側面を押圧し、目地プレート支持部材が平面視略平行四辺形状となるようにガイドする。

【 0 0 4 4 】

また、前後方向のバー部材（左右方向に延在するバー部材）のいずれかの外側面に、下方に突出するピン状の被ガイド部を設け、この被ガイド部と係合する左右方向に延在する溝又はレール状のガイド部材を目地プレート支持部に設けてもよい。このように溝又はガイド部材を設けることで、レール部材等の数を少なくすることもでき、カバープレート支持機構の動きを妨げることも防止できる。

【 0 0 4 5 】

以上のとおりであるから、本発明の床用目地装置は、一方と他方の躯体間の目地部を塞ぐ床用目地装置であって、前記一方の躯体に設けられた目地プレート取付部と、前記他方の躯体に設けられた凹所状の目地プレート支持部と、前記目地プレート取付部に一端部が取り付けられているとともに、前記目地プレート支持部に他端部が支持される目地プレートと、前記他方の躯体に一端部が固定されているとともに、他端部が前記目地プレートに支持されるカバープレートと、カバープレートの底面を支持するカバープレート支持機構と、目地プレートをガイドするガイド部材とで構成され、前記目地プレートは、一端部が前記目地プレート取付部に取り付けられているとともに、他端部が前記目地プレート支持部に支持され、かつ、変形可能な枠状の目地プレート支持部材と、該目地プレート支持部材に枢支ピンで枢支され、互いに一部が重なり合う複数の目地プレート本体と、前記ガイド部材にガイドされる被ガイド部とからなり、また、前記カバープレート支持機構は、前記目地プレートの他端部と前記目地プレート支持部の端部との間に所定間隔で配置され、前記カバープレートにかかる荷重を支持するカバープレート支持体と、このカバープレート支持体を伸縮可能に接続する伸縮部材とからなり、地震時に一方の躯体と左右の躯体が異なる前後方向に揺れ動いた場合に、目地プレート支持部材が変形し、地震による揺れ動きに追従することを特徴とする。

【 産業上の利用可能性 】

【 0 0 4 6 】

本発明は床用目地装置を製造する産業で利用される。

【 符号の説明 】

【 0 0 4 7 】

- | | | |
|----------------|-------------------|--|
| 1、1 A：床用目地装置、 | 2：目地部、 | |
| 3：一方の躯体、 | 4：他方の躯体、 | |
| 5：目地プレート取付部、 | 6：目地プレート支持部、 | |
| 7、7 A：目地プレート、 | 8：カバープレート、 | |
| 9：カバープレート支持機構、 | 10：目地プレート支持部材、 | |
| 11：枢支ピン、 | 12、12 A：目地プレート本体、 | |
| 13：補強部材、 | 14：滑動部材、 | |
| 15：カバープレート支持体、 | 16：伸縮部材、 | |
| 17：支持体本体、 | 18：ローラー、 | |
| 19：カバー装置、 | 20、20 A：ガイド部材、 | |
| 21、21 A：被ガイド部。 | | |

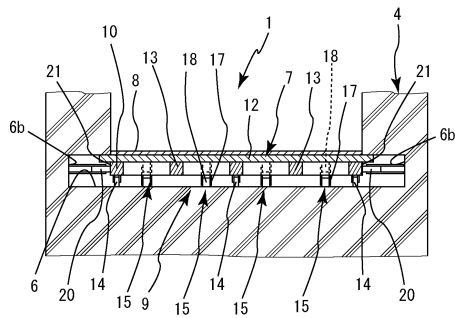
【 要約 】（修正有）

【課題】低コストで設置でき、左右の躯体の揺れ動きに確実に追従できるカバープレート支持機構を備える床用目地装置を提供する。

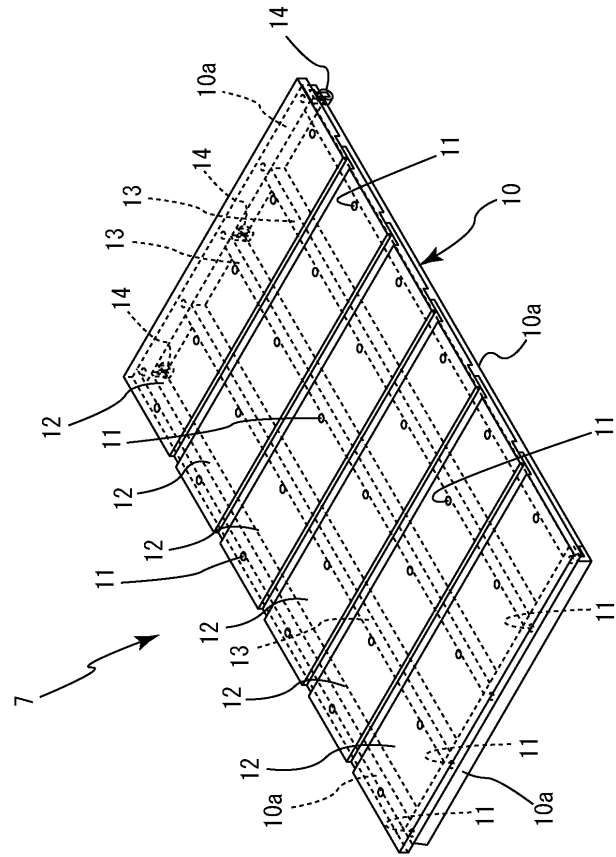
【解決手段】一方の躯体と他方の躯体に取り付けられる目地プレートと、他方の躯体に一端部が固定され他端部が目地プレートに支持されるカバープレートと、カバープレートの底面を支持するカバープレート支持機構と、目地プレートをガイドするガイド部材とで構成され、目地プレートは、変形可能な枠状の目地プレート支持部材と、目地プレート支持部材に枢支ピンで枢支され、互いに一部が重なり合う複数の目地プレート本体と、ガイド部材にガイドされる被ガイド部とからなり、カバープレート支持機構は、目地プレートの他端部と目地プレート支持部の端部との間に所定間隔で配置され、カバープレートにかかる荷重を支持するカバープレート支持体と、このカバープレート支持体を伸縮可能に接

【選択図】図 1

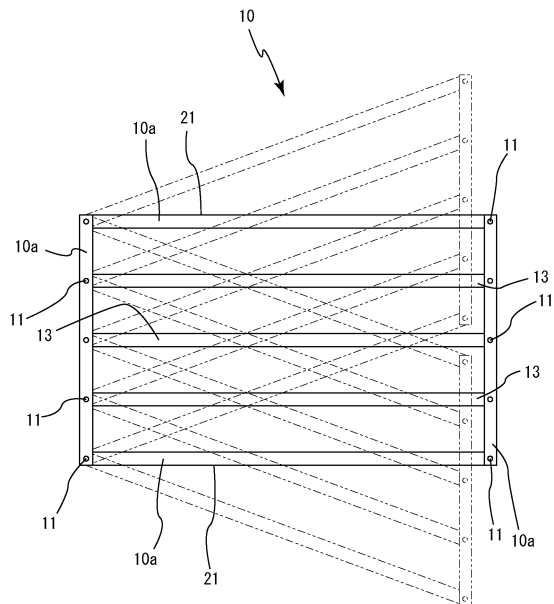
【図 3】



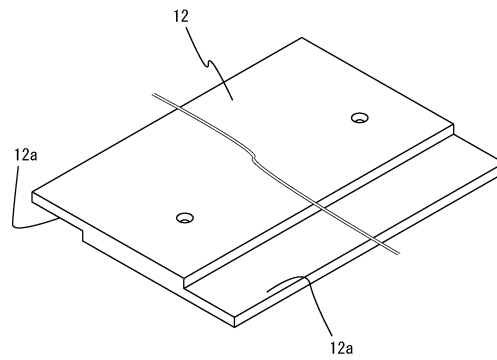
【図 4】



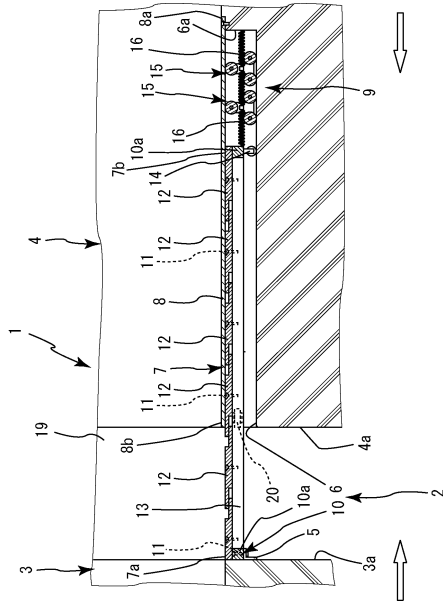
【図 5】



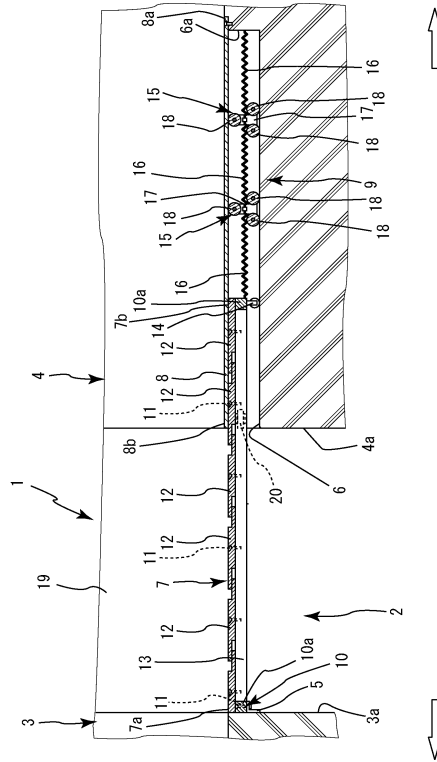
【図 6】



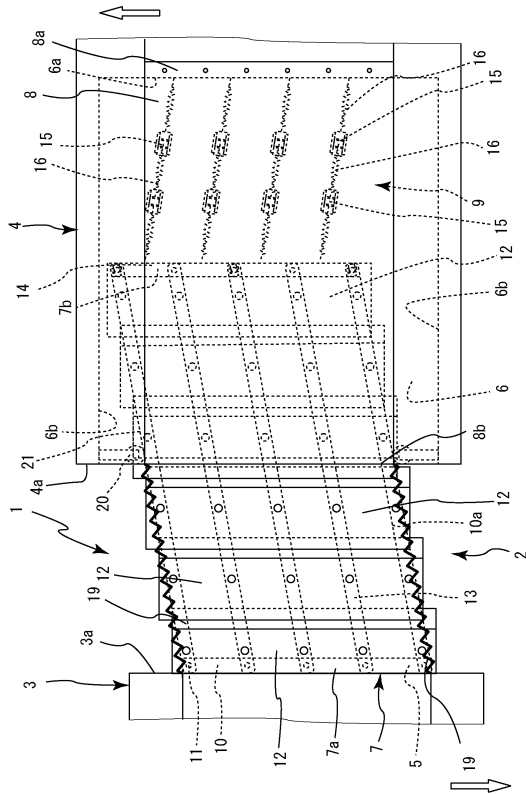
【図 7】



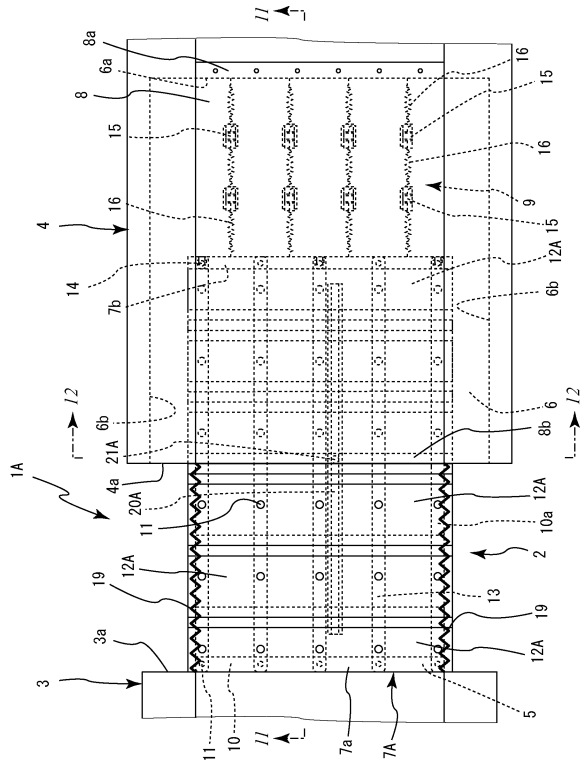
【図 8】



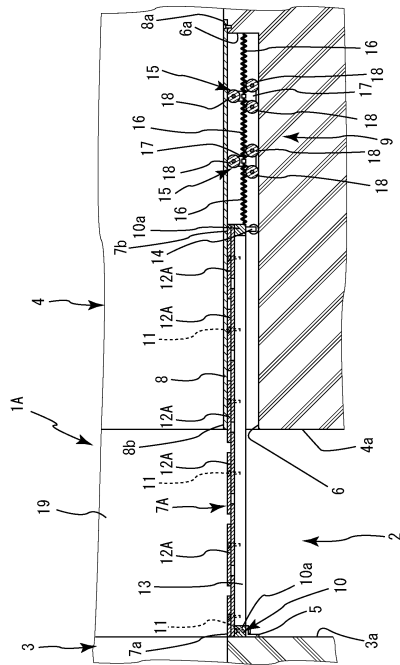
【図 9】



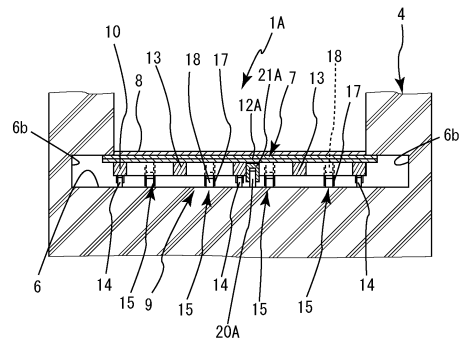
【図 10】



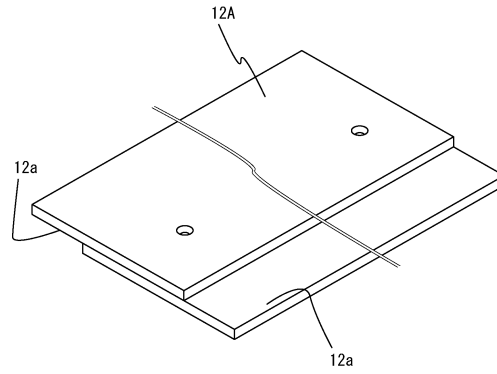
【図 1 1】



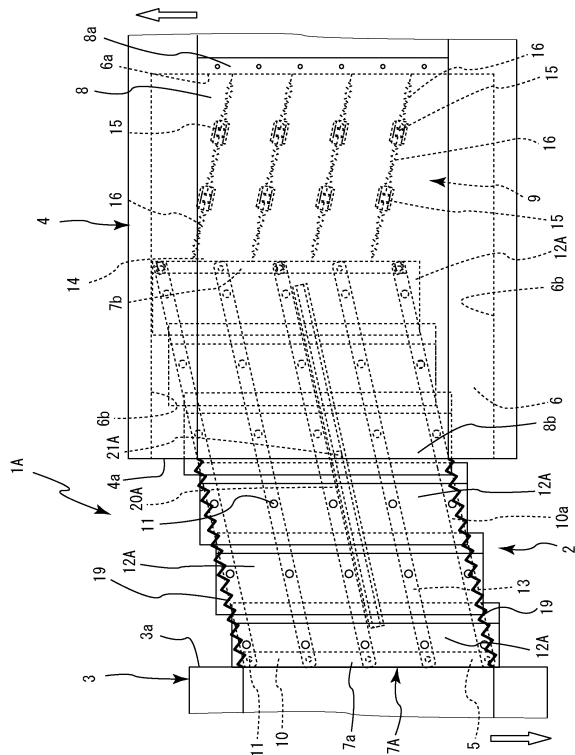
【図 1 2】



【図 1 3】



【図 1 4】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

E 0 4 B 1 / 6 8